

ひきじだい

令和3（2021）年9月1日

長月（9月）号



2学期の始めに、目標を持って少しの一步を！

箱崎 勝美



夏休みが明け、2学期が始まりました。今年の夏は、新型コロナウイルス、特に変異株による感染拡大を防止するために、大和市でも8月26日～8月31日まで夏季休業を延長して、ようやく今日から2学期が始まりました。子どもたちは、暑い中でも元気に通い始め、無事に夏休み明けの学校をスタートすることができました。

しかし、まだまだ、大和市でも感染者数が増え、注意していかなければならない状況です。学校でも感染予防には十分に配慮し、子どもたちが安全で安心して過ごせるように教育活動を進めていきます。

さて、今年の夏は、オリンピックとパラリンピックが東京で開催されました。テレビで観戦した人も多いと思います。現在開催されているパラリンピックの起源は、1948年に医師のロードウイヒグットマン博士の提唱によって、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院内で開かれたアーチェリーの競技です。第二次世界大戦で主に脊髄を負傷した兵士たちの、リハビリの一環として行われた大会は、1952年国際大会になり、1988年のソウル大会からはオリンピックの後に同じ場所で開催されるようになりました。

先日、車椅子バスケット日本対コロンビアの試合の様子をテレビで見ました。両チームとも、車椅子を巧みに操作しながら、パスでつないで、シュートをします。一進一退の攻防が続き、ある選手がボールを取ろうとして、車椅子ごと倒されてしまいました。そのような時、誰かの助けも受けず、皆、自分で立ち上がります。調べてみたところ、車椅子バスケットのルールに「試合中に車いすが転倒した場合は、自力で起き上がらなければなりません。」とありました。困難の中でも最後まで自分の目標を達成しようとする強い意志を持って試合をしている選手達の姿に感動しました。

以前、オリンピック女子水泳、池江璃花子選手が「神様は乗り越えられない試練は与えない。」と言って、夢を捨てずに努力してオリンピック出場を果たしたように、子ども達には新型コロナウイルス感染拡大などで、大変な状況ですが、目標を持って、夢を諦めずに「少しの一步を」進み、自分からかがやき続けて欲しいと思います。

パラリンピックの精神には勇気、決断、平等、鼓舞などの4つの中心価値があり、それは、障害の有無にかかわらず、共に力を合わせて生活できる真の「共生社会」を実現するためとあります。

色々なことを認める広い心、人に対する優しさを大切にして、先生達、子ども達と、皆で喜びのある学校づくりをしていきたいと考えております、この2学期もどうぞよろしくお願いいたします。